

困っている児童生徒をチームで援助

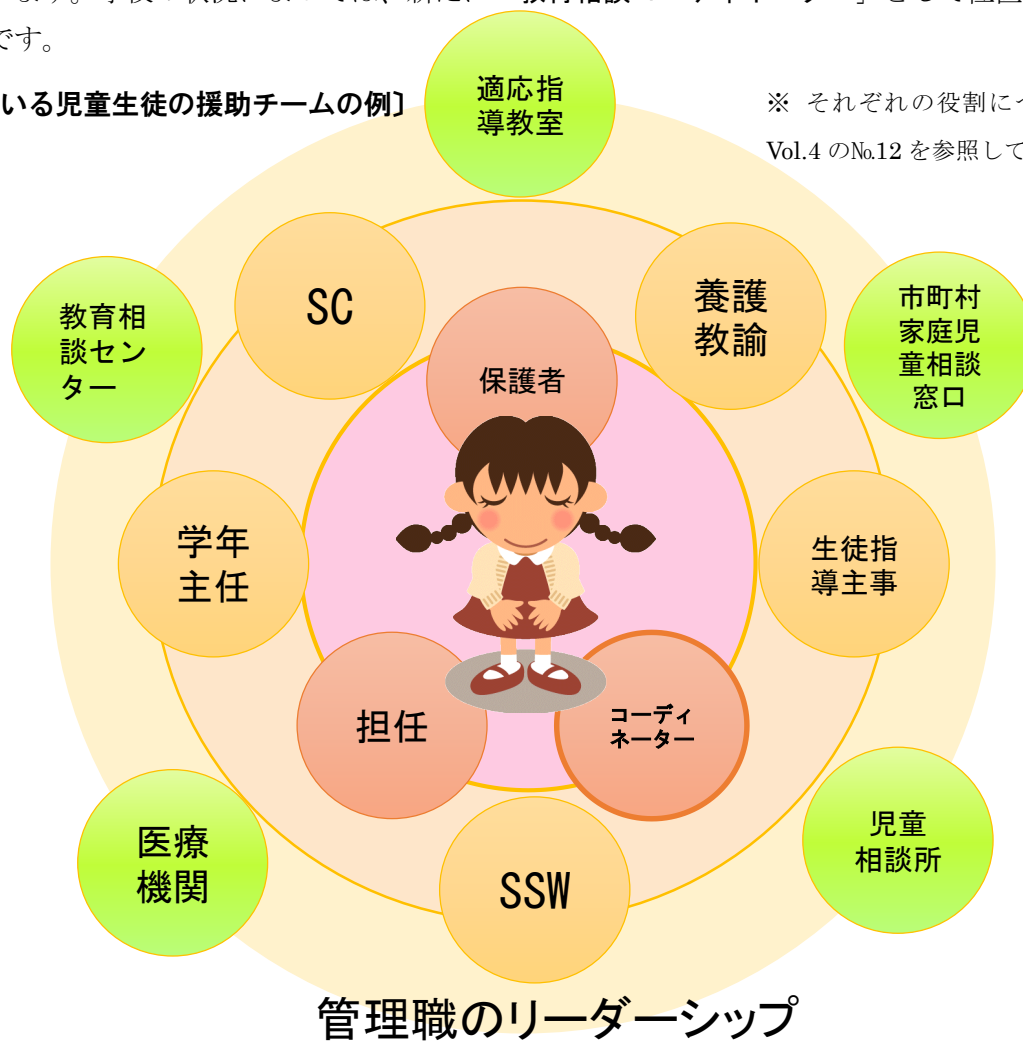
不登校は、本人、家庭、学校など多岐にわたる要因や背景が複雑に絡み合っている場合が多く、学校だけでその対応に取り組むことが困難な場合もあります。そこで校内体制の強化のみならず、関係機関との連携協力等のネットワークによる援助も視野に入れて対応する必要があります。

その際、**管理職のリーダーシップ**のもと、コーディネーター役の教員が中心となり、担任を支えるとともに、困っている児童生徒にとって必要な援助を適切に行うための体制をつくる必要があります。

多くの学校では、生徒指導主事や養護教諭、特別支援教育コーディネーターがコーディネーターを務めています。学校の状況によっては、新たに「**教育相談コーディネーター**」として位置付けることも有効です。

〔困っている児童生徒の援助チームの例〕

※ それぞれの役割については、Vol.4 のNo.12 を参照してください。



〔チーム援助のポイント〕

- 援助チームの核は、「担任、保護者、コーディネーター」です。これらを支える学校内外の子どもに関わることができる人的資源を活用します。
- コーディネーター役の教員は、個別の援助チームだけでなく、学校全体のコーディネーションを行います。
- 複数の援助者の視点やアンケート結果など、客観的資料をもとに、児童生徒に対して適切なアセスメント(見立て)を行います。
- 援助チームとしての共通の目標を設定し、それぞれの立場(役割)で、可能な援助を行います。